

# 大崎耕土 未来へつなぐ「生きた遺産」vol.29

## 大崎耕土の水管理基盤のつながり③「湿地帯の水管理」

大崎地域では、いにしえから地形の特徴に合わせた水管理が行われ、水田農業が営まれてきました。現在の古川地域や田尻地域の北部にある丘陵地帯には、かつて沼地が点在していました。こうした丘陵地帯は起伏があるため水はけが悪く、排水や用水の確保が困難であるため、水田としての利用が難しい地域でした。

江戸時代、沼部村貝ノ堀(現在の田尻地域)出身で仙台藩北方奉行だった佐賀房(はら)は、退職後の寛永12年(1635年)に地域に貢献するため「貝堀沼」の用排水整備事業を手掛け始め、約130haの新田を開発しました。このときは、上流にある「三高野沼」から潜穴(トンネル)を通すことで、新田の用水を確保するとともに、三高野沼を排水して新たな新田開発を始めるといふ一石二鳥の工夫が凝らされています。その後、上流の沼でこれを繰り返し、貝堀沼の開発から元禄3年(1690年)の「大崎沼」の開発までの55年間で約700haの新田を開発しました。佐賀氏による貝堀沼の用排水整備事業は、55年にわたる大事業の発端にあたる重要なものであり、地元の貝ノ堀地域では石碑(明治27年建立)や神社(昭和29年造営)が建てられ、現在にその功績を伝えていきます。

大崎地域は洪水や渇水、「やませ」による冷害という三重苦に苦しんできましたが、地形の特徴ごとにさまざまな水管理基盤を組み合わせて克服してきました。そうした先人が編み出した水管理の知恵が現在まで受け継がれて「大崎耕土」と呼ばれる一大農業地帯に発展しました。



▲開発された沼の位置図。上流から大崎沼(現在の田尻諏訪峠・古川小野付近)、八幡沼(現在の田尻大嶺付近)、木戸沼(現在の田尻大嶺付近)、三高野沼(現在の田尻沼部付近)、貝堀沼(現在の田尻沼部付近)

**GIAHS**  
Globally Important Agricultural Heritage Systems

【問い合わせ先】産業政策課  
世界農業遺産推進室  
☎ 23-2281  
sangyo@city.osakimiyagi.jp

## 2月1日現在の大崎市の人口 (単位:人・世帯)

地域	男	前月比	女	前月比	計	前月比	世帯数
古川	38,241	+ 2	39,626	- 8	77,867	- 6	31,188
松山	2,968	0	3,127	- 3	6,095	- 3	2,196
三本木	3,969	- 8	3,999	- 8	7,968	- 16	2,704
鹿島台	5,819	- 7	6,204	- 19	12,023	- 26	4,538
岩出山	5,346	- 2	5,636	- 13	10,982	- 15	4,201
鳴子温泉	2,940	- 6	3,269	- 4	6,209	- 10	2,757
田尻	5,461	- 15	5,619	- 6	11,080	- 21	3,592
市全体	64,744	- 36	67,480	- 61	132,224	- 97	51,176

☎ 市政情報課統計担当 ☎23-5091

## 今月の納税

納期限: 4月2日(月)

□ 軽自動車税	—
□ 固定資産税・都市計画税	—
□ 市県民税	—
□ 国民健康保険税	—
□ 介護保険料	—
☑ 後期高齢者医療保険料	第9期
□ 個人事業税	—

※市から送付する納付書や口座振替を利用している人の納期限です。

☎ 納税課収納担当 ☎23-5148

## 空間放射線量の測定結果

(単位: マイクロシーベルト/h)

2月13日測定	地表面から1m	地表面から0.5m
市役所第2駐車場	0.05	0.05
松山総合支所	0.03	0.04
三本木総合支所	0.06	0.06
鹿島台総合支所	0.05	0.04
岩出山総合支所	0.05	0.05
鳴子総合支所	0.05	0.05
田尻総合支所	0.05	0.06

## 火災発生件数

(1月末日現在・右欄は前年比)

建物火災	5件	+ 2
林野火災	0件	0
車両火災	0件	- 1
その他火災	0件	0
合計	5件	+ 1

## 交通死亡事故件数

(2月15日現在・右欄は前年比)

発生件数	1件	1
死亡者数	1人	1

☎ 防災安全課 消防担当・交通防犯担当・放射能対策室 ☎23-5144

## 3月号の主な内容

- ④ 真の豊かさを求めて 東日本大震災から7年の記憶
- ⑥ 写真が伝えるおおさきの魅力 第8回おおさき観光写真コンテスト入賞作品
- ⑧ 地域の課題解決に二つの交付金が活用されています
- ⑩ わがまち企業訪問 vol.7 株式会社古川ミート
- ⑪ 大崎市が進める地方創生 市民ワールドカフェ
- ⑫ 市政トピックス 2月の主な出来事
- ⑬ 地域発! お・ら・ほ・の・ま・ち
- ⑭ オオサキプレイガイド
- ⑯ 今月のお知らせ 選挙の期日前立会人を募集します ほか
- ⑰ 子育て支援情報
- ⑱ 育児相談・乳幼児健診
- ⑳ 休日当番医 ほか

## 「大人の遠足」開催したよ!



☎ 観光交流課 ☎23-7097

世界農業遺産の認定を記念して、あらためて、市民のみんなに大崎市の魅力を知ってもらおうと、「宝の都(くに)・おおさき大人の遠足」を2月3日に開催したよ。

当日は、早朝から蕪栗沼でマガシの飛び立ちを観察したり、大崎市の大豆を使ったみそ作り体験、松山と鹿島台地域の観光地やまち歩きなど、

▲「大人の遠足」に参加した総勢40人の皆さん

風土文化を身近に感じる遠足になったよ。

参加者からは、「実際に歩いて肌で感じることで、大崎の良さを深く知ることができた」と好評の声を聞いたんだ。

これからも市民のみんなに大崎の魅力を感じてもらおう企画を紹介していくよ。地元の魅力を知って、みんなで大崎を盛り上げよう!

## 今月の表紙

2月13日、子育て支援総合施設田尻すまいる園で、5歳児の園児たちがひな飾りを制作しました。

園児たちは、自分の上半身ほどもある大きな白い画用紙に、金の折り紙をさまざまな模様で切り貼りして金屏風に見立て、その上におひなさまなどを飾ります。おひなさまの着物は、水に薄めた絵の具で染めた厚紙で作って、園児たちは、淡くマーブル模様が付いた着物に「きれいにできた」と目をきらきらさせていました。



市内の道の駅2箇所(あ・ら・伊達な道の駅、三本木道の駅やまなみ)・鉄道の駅(JR古川駅)・まちの駅(みちのく古川食の蔵 醸室)の4駅では、3月5日までつるし雛が展示されています。春の訪れを感じに出かけてみませんか。

## 市長コラム

# 天地人

## 復興から創生へ

平成23年3月11日に発生した東日本大震災から間もなく7年が経とうとしています。

内陸の地震被害としては最大の被災地であった本市は、内陸の復興モデルを目指し、7年間の復興計画「真の豊かさ連携と協働による大崎の創生」を掲げ、速やかなる復旧・復興と併せ、津波被災地の二次避難者の受け入れにも対応してまいりました。

また、東日本大震災で学んだ教訓を生かし、352の自主防災組織の結成、49団体との災害協定の締結、19自治体との災害応援協定などの体制整備も図ることができました。

今後、現在進めている中心市街地復興まちづくり事業、市役所本庁舎建設事業、放射能汚染農業系廃棄物の処理を加速してまいります。

この間、創造的復興を目指し、まちなか居住と併せた災害公営住宅の建設、災害拠点病院としての大崎市民病院本院の建設、農業支援拠点施設としてのカントリーエレベーターの整備事業、防災情報伝達のためのデジタル防災行政無線の整備、市民生活を豊かにする新図書館の建設などを成し遂げることができました。

これまでの、市民皆様のご協力や県・国・全国からのご支援に心から感謝申し上げます。

その上で、震災復興後の次なるステージである災害に強い笑顔あふれるまちづくり、水田稲作地帯としては世界で初めて認定された世界農業遺産の旗印の下に、真の豊かさを求めて、世界につながる大崎創生に向けて邁進してまいります。



大崎市長 伊藤 孝志